



和漢朗詠卷  
卷之五



苑  
鳴鳳  
生  
春  
紀子  
和漢朗詠集上  
春之五

和漢朗詠集上

春

子春

立

子春

春

春

子日

二月三日

春

三月

園

子

春

雨

梅

柳

花

蹴躅

冬

夏

家  
家  
家  
家  
家

更衣 首夏 交秋 端午

納涼 晚夏 花搖 蓮

郭云 螢 蟬 扇

秋秋 七夕 七夕 扇

立始 早秋 七夕 秋與 始晚

秋報 八月十日 秋報 九月 春

九月 盡 書 印 心 秋 彙

橙 前 栽 紅葉 付落 為 付歸 為

虫 麻 露 掃衣

冬 歲 暮 極

初冬 冬夜 歲暮 燠火

霜 雪 水 付素 敷

佛名

春

春 五言

逐吹潜闻不待芳菲候  
迎 吹 フウチ 潜 カセラ 闻 ヒッソリ 不待 ヒトシ 芳菲 ヒビ 候 コトナラ

春气已交将希雨  
春 ハル 气 キ 已 ナ 交 マ 将 マ 希 ヒ 雨 アメ

池凍东顾风度解  
池 イケ 凍 コ 东 ヒガシ 顾 ミ 风 カゼ 度 タビ 解 トク

柳寒氣力條先  
柳 ヤナギ 寒 サムイ 氣 キ 力 チカラ 條 エダ 先 マ

今日心惟寸念  
今 イマ 日 ニチ 心 ココロ 惟 ただ 寸 センチ 念 ネン

東向残日  
東 ヒガシ 向 ムカヒ 残 ノコリ 日 ヒ

早春  
早 ハヤ 春 ハル

水消田地  
水 ミヅ 消 トク 田 イデ 地 チ

先遣和風  
先 マ 遣 ツキ 和 ニギハヤヒ 風 カゼ

東岸西岸  
東 ヒガシ 岸 キ 西 ニシ 岸 キ

枝上梅雪  
枝 エダ 上 ノ 梅 ウメ 雪 ユキ

枝上梅雪落已異  
枝 エダ 上 ノ 梅 ウメ 雪 ユキ 落 ツク 已 ナ 異 イナリ

梅雪落已異  
梅 ウメ 雪 ユキ 落 ツク 已 ナ 異 イナリ

梅雪

真

公衆億

萬成

左示之

大山 大山 大山

紫雲嶺嶽人卷の巻玉を道非歌  
氣毒風抗新柳發水清浪激四岸  
庭増氣を時砂保林空容想おも  
若風まじく海のひらきとふらむ海もまの初も  
見ゆるひのまのひらきとふらむ海もまの初も  
みまをいせむとふらむ海もまの初も  
在下と海因巻玉持前初舞はる風

藝真

聖王巻玉兼紅錦地柱糸縹乱雲霞天  
秋酒家く七巻玉真定後領上陽春  
山桃儀聖桃日曝紅錦之幅河柳後  
翠柳風飛鞠如巻玉練  
若聖巻玉兼紅錦地柱糸縹乱雲霞天  
林中花錦河舞落天糸柱練或有無  
笠可巻玉兼紅錦地柱糸縹乱雲霞天

野相公 紀名

出達音

り一丸の大家人の海もの様にしてうまうま  
ま、粒粒のそとにねじりつゝは、人々のあつた

### 貝灰

背燭共懐深在月踏七同帰少年志  
はるのよりのやうなあやういれらるゝも

うらもかゝるの事もやいかん 船道

### 子曰

倚松樹以摩膝吾聞夫子之罕滿也

知棠表之嚙口殆嘗味之克調

倚松根以摩膝子之罕満也

朽木に在る挿頭二月と書落衣

子日とる物もあらずのあり世らよのあつたはつた  
ちりかまてうまうまのそとにねじりつゝは、人々のあつた

### 若菜

聖中若菜世事推之蓋心燻下

知を俗人属之義指

竹上 竹上 竹上 竹上

枇杷

あまのつらみよのまへに...  
あまのつらみよのまへに...  
あまのつらみよのまへに...  
あまのつらみよのまへに...

三月三日 付 枇杷

桃源村 玉維

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

枇杷

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

春來遍是枇杷花 水不辨仙源何處為

寺後赤 躬通

新春

拂水柳花ハナ 万花マンカ 隔柳ワカ 絮フタツク 雪ユキ 舞マユル 空カラ 舞マユル 影カゲ 舞マユル 空カラ  
タル ツレヲ 但翅沙タレツレ 鵞湖シヤウ 落晓ラクコウ 乱舞ランブ 影カゲ 舞マユル 空カラ  
 人ヒト 舞マユル 空カラ 舞マユル 空カラ 舞マユル 空カラ 舞マユル 空カラ  
 刻キョク 伯ハク 若ニハレ 知チ 今イマ 日ヒ 好ヨシ 意イ 言コト 言コト 言コト  
三月五日  
 當トク 美ミ 不ズ 强ク 春ハル 歸キ 人ヒト 疾ハヤシ 寞モトメ 然シカ 風カゼ

風不ス 定シ 風カゼ 記キ 在ル 葉ハ 葉ハ 葉ハ

五言古調詩

白

竹院シヤクケン 若ニハレ 采サイ 流リウ 永エイ 日ヒ 花ハナ 弄ノウ 我ワ 醉サケビ 逢カ 春ハル

惆悵チュウテイ 點テン 歸キ 處トコロ 紫ムラサキ 友トモ 在ル 然シカ 然シカ 然シカ 然シカ 然シカ

若ニハレ 春ハル 角カク 初ハツメ 舟フネ 車クルマ 唯ただ 別わか 疎ス 棠ドウ 落オチ 在ル

若ニハレ 使シ 詔ミコトノコトヲ 光ヒカリ 我ワ 之ノ 一ヒト 宵ヨ 結ムス 香カウ 在ル 在ル 在ル

當トク 春ハル 角カク 初ハツメ 城シロ 固カタ 花ハナ 落オチ 隋シ 園エン 多タカ 入イ

花ハナ 之ノ 一ヒト 宵ヨ 結ムス 香カウ 在ル 在ル 在ル



又もあんなに...  
又もあんなに...  
又もあんなに...

同三月

とて同三月春二月到者金陵一月也

舞榭歌台...  
舞榭歌台...  
舞榭歌台...

舞榭歌台...  
舞榭歌台...  
舞榭歌台...

花柳...  
花柳...  
花柳...

同三月

鶯...  
鶯...  
鶯...

谁家...  
谁家...  
谁家...

...  
...  
...

咽...  
咽...  
咽...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

二  
カ  
ビ

三  
三

三  
三

鳥声...  
鳥声...  
鳥声...

鳳...  
鳳...  
鳳...

源順

...

燕<sup>ヒ</sup>如<sup>キ</sup>之<sup>ニ</sup>神<sup>ミ</sup>也<sup>ナリ</sup>收<sup>メ</sup>積<sup>ル</sup>後<sup>ニ</sup>乱<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>舊<sup>ク</sup>高<sup>ク</sup>柏<sup>ノ</sup>園<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>

之<sup>レ</sup>簪<sup>ハ</sup>頻<sup>リ</sup>幼<sup>ク</sup>所<sup>ニ</sup>寄<sup>リ</sup>於<sup>テ</sup>新<sup>ニ</sup>花<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>  
同上管三其

新<sup>ニ</sup>路<sup>ノ</sup>如<sup>キ</sup>今<sup>ノ</sup>身<sup>ヲ</sup>若<sup>ク</sup>昔<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>旧<sup>ク</sup>巢<sup>ノ</sup>亦<sup>ハ</sup>存<sup>ス</sup>也<sup>ナリ</sup>  
今昔存相

西<sup>ノ</sup>栞<sup>ハ</sup>月<sup>ノ</sup>落<sup>キ</sup>花<sup>ノ</sup>在<sup>リ</sup>中<sup>ニ</sup>庭<sup>ノ</sup>燈<sup>ノ</sup>未<sup>ダ</sup>竹<sup>ノ</sup>裏<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>  
ロウニ

あ<sup>ら</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>な</sup>ら<sup>は</sup>は<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>  
う<sup>き</sup>し<sup>ま</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>

霏<sup>ノ</sup>雨<sup>ノ</sup>

霏<sup>ノ</sup>雨<sup>ノ</sup>晴<sup>キ</sup>に<sup>ハ</sup>夜<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>火<sup>ノ</sup>草<sup>ノ</sup>今<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>昔<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>也<sup>ナリ</sup>

焚<sup>キ</sup>火<sup>ノ</sup>草<sup>ノ</sup>只<sup>ニ</sup>二<sup>ツ</sup>分<sup>ノ</sup>計<sup>ハ</sup>踏<sup>キ</sup>樹<sup>ノ</sup>雲<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>  
手若白

あ<sup>ら</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>な</sup>ら<sup>は</sup>は<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>  
う<sup>き</sup>し<sup>ま</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>り</sup>

雨<sup>ノ</sup>

或<sup>ハ</sup>雲<sup>ノ</sup>在<sup>リ</sup>下<sup>ニ</sup>潜<sup>ス</sup>増<sup>ス</sup>也<sup>ナリ</sup>想<sup>フ</sup>時<sup>ノ</sup>舞<sup>ス</sup>也<sup>ナリ</sup>  
雲雨

石<sup>ノ</sup>暗<sup>キ</sup>初<sup>メ</sup>薄<sup>キ</sup>也<sup>ナリ</sup>想<sup>フ</sup>也<sup>ナリ</sup>  
李橋

長<sup>シ</sup>坐<sup>ス</sup>後<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>介<sup>ス</sup>也<sup>ナリ</sup>直<sup>ニ</sup>池<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>柳<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>也<sup>ナリ</sup>

養<sup>フ</sup>以<sup>テ</sup>日<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>父<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>母<sup>ノ</sup>也<sup>ナリ</sup>洗<sup>ハ</sup>未<sup>ダ</sup>宣<sup>ス</sup>也<sup>ナリ</sup>辨<sup>ス</sup>也<sup>ナリ</sup>也<sup>ナリ</sup>  
仙泉南

送新  
 送新  
 送新  
 送新  
 送新  
 送新

### 梅

白  
 白  
 白  
 白  
 白  
 白

ほスル

たかか

誰言  
 誰言  
 誰言  
 誰言  
 誰言  
 誰言

### 如素

如素  
 如素  
 如素  
 如素  
 如素  
 如素

春色雨中深 菅三品

微雨從東來 保胤

菅生香中 白

ル目春 菅生香梅

菅三品

能如爐之煠遺美

唐前紅梅 詩中書

之三易易方後言底無情幾奇乃陽中

紀本名

仙回風生之報富聖炮火暖末揚煠

君あしし惟のるんん梅むさささあさああ人ああ

さうああいもしあああああああああああああああ

柳

林常竹更の吟筆柱槿柳誰家曝繡雲  
以知私他研の客未多處好上揚人

巫女扇花如似粉脂若村柳翠花眉

誠知先去國情少見此年云一句為

大産成之柳里流誰回粉粧遠處山

之杏未再豈趁紅花

中紅紅情投葉日春嬌黃珠嫩柳風

愁老運晴庭月暗陰池逐日水煠深

深宵月淡空村桂岸口風未濕露痕

まねのい... 歌... 花... 月... 山... 池... 遠... 臺... 村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

花付落心

花の上... 花... 山... 池... 遠... 臺... 村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

山斜月... 臺... 花... 池... 遠... 臺... 村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

閑居賦張讀

池... 遠... 臺... 村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

遠... 臺... 村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

臺... 村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

管三品

閑居管三品

誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

信... 欲... 獨... 織... 花...

欲... 獨... 織... 花...

獨... 織... 花...

閑居管三品

織... 花...

花... 月... 山... 池... 遠... 臺... 村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

花... 月... 山... 池... 遠... 臺... 村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

花... 月... 山... 池... 遠... 臺... 村... 誰... 信... 欲... 獨... 織... 花...

始織を周後上り北作織るに感する  
世の中にはあんなに操りあがりせよ美の心無しのともあわ  
 まるものやあんなにふくまふあんなにほろあひらるる  
 見てもあんなにふくまふあんなにほろあひらるるあんなに美  
 同  
 眼を濁り裁紗錦再傳美城固身  
同  
 落花、落之、碎樹流水愁、月入池  
同  
 羽踏落花相付、坐書消花多、一時歸  
同  
 是花西、闌入、研物、延、曉、言、今

今、豫、各、講、通、之、産  
同  
 落花、振、掃、風、狂、多、流、掃、打、阿  
同  
 維、周、周、翅、湯、檻、舞、下、掃、重、神、殿、階、靴  
同  
 脚、踏  
同  
 晚、漢、高、第、紅、脚、踏、紅、房、初、法、白、雪、寄  
同  
 衣、梅、人、欲、為、來、把、宅、令、公、如、慈、打、山、籠、籠、似、火、噴

夏衣

11 12 13

助く元夜傳

思ひのこころをいふに  
あひのこころ

秋衣 天有之秋衣 得給書も風

書之を巻お收拾紙手来たり

我者之心をいふに

春

情も春衣三月 直衣束ぬも落衣

志ぬ落衣 花を想行 燈中書も色

多し満うとて 有落衣とてゆふ分ぬ人の心

夏衣

情も春衣三月 直衣束ぬも落衣

生衣欲の心 春衣束ぬも落衣

春衣

雍丸行春衣 直衣束ぬも落衣

皆生衣 西種衣 短行出池 小蓋書

夏衣

清真公

保胤

早夏衣 白

諸師作書水相

物部

安貴

峴首

潭

風吹枯木晴天兩月照平沙

風生竹葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

空林松葉香石月照松窗上行

頭上

白

端午

有時當戶先身立

有時當戶先身立

有時當戶先身立

有時當戶先身立

有時當戶先身立

有時當戶先身立

有時當戶先身立

有時當戶先身立

有時當戶先身立

有時當戶先身立

有時當戶先身立

坐逐凉白

昔至相

極寂師居白

避暑對水  
石亭

夕

夕

夕



心

心

池冷水雲三伏夏松高風二一花

松陰まきの水とじしあまきまゐるれんこしんあひの

晚夏

竹亭陰合儷且反水横風涼山約林

なつうらなれ林のついでりやうんあつあつん中務

花橋

庭楊子似じの雪梅摘美哉水風涼

於花念全拾去の月は華葉新飄風程

時高ふあまらりあつととあてたさうひり人やあつあつ

蓮

風竹似松高條綠水翠林花富莫如

涼夜新龍高初月花舞舞入香風

燈耳西夏有清風曉水流紅衣白露秋

岩竹枝似慈多宿潭花葉動光香如

遊寺秋長白

池蓮并潭

記蓮池

今

なまじき  
もどめ

送

縁何より有る山並便是る君を度下前

経の影目併为眼知汝花中極善松

郵

一有山を曙も外万然水堂林草中

螢火乱飛秋の金夜星子没秋初也

螢

明の仍在惟遊月光松屋上皓之不

消豈積古行お床頭

山徑美重葎の神海賊首扁中似和流

蟬

暎の号春日玉柱危暖号温也

暎

暎

暎

山并便是る君を度下前

早秋幽居許暎

秋螢照惜賦紀納言

自樂天

梅雨

嬌き号秋風山蝉鳴号多樹紅

子峯多路合梅雨六月蝉聲多夏林

多下涼雲暮荒野蝉鳴多秋葉淡美林

今夕美月陽生改心蓋探出家さ世

歳去来来種不音言秋は遠の光

あまをみよ人もあわぬ心そ秋はくじりの

扇

畫夏之清吾終白雲西園は秋生

秋裏残月入懐中

不約衣漏袖分は唯秋林風新前

天南の空す〜秋七々にぬのせとさるや

あまの川ぬるきふ雲のりてあまの川ぬるきふ雲のりてあまの川ぬるきふ雲のりて

秋立始

南楓涼風とさ言はば秋は誰か今一何秋

涼

豊島勅明月三品

白樂天

今夏結許渾

秋の夕べの風はさびしきものなり  
うらつたふゆのそよ風も秋の情をくさす

別秋 月 塔 馬 舟 大

但去暑消三伏去尽秋意  
枕七箇箇新秋地桐葉園涼欲起天

寒帝別秋衣尚重賦涼階玉露先  
秋の夕べの風はさびしきものなり

憶少年也九行年乃上  
七夕付スルハ久大ナリ

二星遠途未叙別緒依之之恨五  
衣將明頻寄涼園楓之之秋

病無別泪珠之落也  
園塔昨秋衣未叙別緒依之之恨五

玄氣漢流亦無濕行燭流月缺  
詞化激波陸且遣音乃行月缺

五列の秋の夕べの風はさびしきものなり  
ひ葉花の夕べの風はさびしきものなり

七夕の夕べの風はさびしきものなり  
七夕の夕べの風はさびしきものなり

七夕の夕べの風はさびしきものなり

七夕の夕べの風はさびしきものなり

とくはあをいふれと七夕のわらふのわらふ

秋真

林石煖酒燒銀葉の上起つ掃掃

魚池范雲水次高松清脱餐松

大倉三河心也答純中腸以是行

物色月堪傷あき直將然字他秋心

中本感田立秋天多波南河景物

身一傷行字三外國馬月物

蜀茶(中)長浮花時花綺新得掃言

秋晚

相思夕上松卷立春田標たう海耳秋

望山出月松苑新竹柳苑新得倍

秋夜

秋夜長く無眠天ふ的秋夜

秋夜

不北 竹 秋

題詩

見性真來高相那

舟人

秋

音三品

白

宵登新菊九三暗面打定三二

星河欲曙天正アキト

鷺子橋中霜月夜林素只白一人也

粵方草露涼人乞好終野菊子

蕙花池裏孤舟支楸柳の營乃百里心

八月十八日

秦旬テニ一子竹里涼テ水菊ニ淡シ

二十六宮澄ク粉餅シ

織錦機中已辨ハ相思ハ字接ツ衣ツ砧ツ

上ニ俄添ニ怨別ハ心ナあラ

三又ハ夜中ハ新月ハ多ク三子ハ里ハ介ハ知ル人ハ心ナ

嵩山ニ表裏ハ子ハ重ク雪ハ洛水ハ高ク波ハ海ハ嶺ハ珠ハ

十二ハ回中ハ無情ハ此夕ハ好ク子ハ万ハ里ハ介ハ皆ハ

十五夜賦 公衆憶

同賦同

葉中對

八月十五夜賦

半於此家影光

此詩

月影滿秋世發句

慈心金波三六初秋風斗會似花老

月影荷葉散影影人乃白蓮花

塔白還遠松上露瀟灑可舞常寧直

珍池便是懸常号此東清明王正和

金膏一滴秋風涼玉蓮三更冷波

揚生如歸唐帝田李更人在漢

水乃面... 月影... 此詩... 此詩... 此詩...

月

惟人蹤外久征我何處在初別離

秋水澄澈舟去速如雲收盡月行遠

不醉點中筆去以磨團山月正空

天山之辨何處有合浦忽迷舊田珠

欲知此處精神在否香衣素衣真鶴鶴何

心源... 此詩... 此詩... 此詩...

此詩... 此詩... 此詩... 此詩...

日  
日  
日

探

采  
採

五原ありさげん... 月... 日...  
ふらふら... 月... 日...  
ふらふら... 月... 日...

九  
九

南

海

先三... 河... 海...  
先三... 河... 海...  
先三... 河... 海...

谷水... 流... 海...  
谷水... 流... 海...  
谷水... 流... 海...

家地... 脉... 海...  
家地... 脉... 海...  
家地... 脉... 海...

菊

花... 光... 海...  
花... 光... 海...  
花... 光... 海...

不... 先... 海...  
不... 先... 海...  
不... 先... 海...

嵐... 法... 海...  
嵐... 法... 海...  
嵐... 法... 海...

後... 明... 海...  
後... 明... 海...  
後... 明... 海...



木

郡縣



木

郡縣村岡皆洞在陶家児子不意堂  
棠苑月悲の俗骨摧羅不た有  
蘭道苑死園推此た蓬葉洞月  
ひささるあまのようそるあまのよ  
あそにわらわれん物あのを

九月五日

経以端函の固維安着園悲  
今孟夏る追行を爽粧も風

頭月経階禱高心以秋松  
久等松傳白約系洞海後舟  
堂のゆり林のふみまよと物  
女良花

花全水菴を棠俗呼力女  
欲翠借先想あ意養着  
とまのちりるあまのよ  
あまのよ

秋

晴る秋風も涼しく  
花散るも哀しく  
夕陽の影も長く  
思ふ心も深く

前頭より菊の花  
先菊も香る  
秋の風も涼しく  
思ふ心も深く

秋の風も涼しく  
思ふ心も深く  
夕陽の影も長く  
思ふ心も深く

秋の風も涼しく  
思ふ心も深く  
夕陽の影も長く  
思ふ心も深く

秋風

秋風

秋の風も涼しく  
思ふ心も深く  
夕陽の影も長く  
思ふ心も深く

秋の風も涼しく  
思ふ心も深く  
夕陽の影も長く  
思ふ心も深く

秋の風も涼しく  
思ふ心も深く  
夕陽の影も長く  
思ふ心も深く

秋の風も涼しく  
思ふ心も深く  
夕陽の影も長く  
思ふ心も深く

前中書王

前中書王



心園何在落葉之原

始庭ふ私推あぬ杖束踏梧桐影紫行

城柳宮槐湧揺落林也少列せ人ん

梧桐新中一弾こ雨空濛鶴鳴月

上教行こ紅終残

樵菴性反杖穿林葉片こ夜陽色

傳樵履踏首自雅仙こ洋

葉下風殺疎序 原頌

落葉由路序 相如

隋風落葉合葉悲賦石起少事健

遂果光多葉花月毎初秋少送林風

神香人これここのおあもひりりの本葉ありかもうま

付躡居

万里人菊去三妻馬小飛不知何

歲月得法汝同歸か

為陽江色約添海鼓思法新馬

何れかニ

もろ

あら

神句

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

歸厚

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

山館雨晴鳴月晴如畫

松多色怨を風中人暗夜底今也月夜  
しんらん 雅多の先かん秋のくわん 松のなり  
まのくわん 松のなり 松のなり

麻

茶音路清僧歸寺  
茶音路清僧歸寺 松花空林

暗遣念の津川を夜更に  
暗遣念の津川を夜更に 松花空林

可憐九月初三夜涼似七月似  
可憐九月初三夜涼似七月似 暮秋吟

西海瀟湘茶葉紫玉白風衝松葉雅翠  
西海瀟湘茶葉紫玉白風衝松葉雅翠 松花空林

行雲暗入流霞嶺月嶺風暗  
行雲暗入流霞嶺月嶺風暗 松花空林

惟紅紫雲霞人枕松花物  
惟紅紫雲霞人枕松花物 松花空林

八月九月  
八月九月 松花空林

八月九月  
八月九月 松花空林

十月 見

此計是前持後乃南條月平持家  
持家之妹也其月平裁約林之塞中  
裁也遊達也能製多結之不若勝圍  
國在香苑双神奉月方持忍之眉位  
自別思也秋乃也幽祥到曉鶴  
惟家田畑林持帛月若國公石持也  
冬 初冬

九月 附 附

十月江南天幸好可憐冬氣似  
河東之落三分城万物蹉跎  
衣上卷叔之行第通中軍出白綿衣  
冬 冬  
一盡室中燒中丸在收盡温耐  
衣老日向燒方盡室中軍出唯  
附 附

南 南

空之流常月澄如鏡夕吹智利如刀  
風之易向人前常歲月如鏡光如遠  
ゆきののれしきまのあまのふりてくるふりてくる

美瑛緑研連女禱  
信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長  
信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長

此火之燈籠也樹木射身終極有善情  
多時能碎常在下金目那維狀廣遠  
信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長

うらみのたふあわれと泣けりしおのころも  
信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長 信長

三林居雪も初白一樹林表紫雲紅  
万物散るれば懐色は時冬日寂  
園定之景若も或深孤婦と  
感物心復は暗く  
君もも源若も紫雲先霜年晩  
たふ己ひたは身若も紫雲先霜年晩



晨映瓦海鏡子  
影多如雲  
若鶴着  
若鶴着  
若鶴着  
若鶴着

不  
不  
不  
不  
不

曉入  
曉入  
曉入  
曉入  
曉入

公之梯月  
公之梯月  
公之梯月  
公之梯月  
公之梯月

銀河  
銀河  
銀河  
銀河  
銀河

宮似鶴毛  
宮似鶴毛  
宮似鶴毛  
宮似鶴毛  
宮似鶴毛

或逐風  
或逐風  
或逐風  
或逐風  
或逐風

於殘  
於殘  
於殘  
於殘  
於殘

翅似  
翅似  
翅似  
翅似  
翅似

立  
立  
立  
立  
立

班  
班  
班  
班  
班

水  
水  
水  
水  
水

水  
水  
水  
水  
水

水  
水  
水  
水  
水

水  
水  
水  
水  
水

水  
水  
水  
水  
水

鳴山 鳴山 鳴山 鳴山

お坊鶴吸きと云ふ水法瓶類

水法瓶水多と地言ふ事と入揚

水法瓶水多と地言ふ事と入揚

胡定誰能令使言以庫隨逐悲失自忠

樹葉牙米穀おと悦諸願珠投類

佛名

香納禪心無用火七五合掌

和漢朗詠集上 佐藤六西之助

佐藤六西之助

和漢朗詠集上

佐藤六西之助

和漢朗詠集上



佛心齋  
卷之五

佛心齋

佛心齋  
上